

## 「あたりまえ」をつくる税金

秋田大学教育文化学部附属中学校3年 長尾 美佑

道路がある、学校がある、きれいな水が使える……。日本では「あたりまえ」のことだろう。そのような「あたりまえ」のことには税金が使われている。税金は私たちの暮らしに「あたりまえ」をつくり、私たちの生活を豊かにしてくれるのだ。しかし、世界には日本でいう「あたりまえ」が当たり前でない国が多く存在する。開発途上国である。

私は学校の総合学習で開発途上国の様子が分かる動画を見たことがある。そこで登場する十三歳の女の子は家の近くに水がなく、一日かけて遠くにある水を得ていた。それは日本の「あたりまえ」から大きくかけ離れた生活だった。動画を見て、とても胸が痛んだ。世界には、その動画で登場する女の子のように充実した生活ができない人がたくさんいる。このままではいけないと思った。

そこで日本はどういった援助を行っているのか調べた。すると、日本の税金が開発途上国の援助に使われていることが分かった。税金は日本でしか使われていないと思っていたので、とても驚いた。その開発途上国の援助のための税金を「経済協力費」というそうだ。「経済協力費」は「ODA（政府開発援助）」と呼ばれる活動に使われている。ODAでは開発途上国が発展するために無償で必要な施設を建てたり、資源を調達したりしている。具体的な取り組みとして、給水施設の整備や技術指導、道路や橋などの整備、ビジネス環境の整備などがある。税金はこれらの活動に関わっている。つまり税金は世界のたくさんの人を助けているのだ。

調べる上でもう一つ驚いたことがある。東日本大震災のときにODAで援助していた国々から、支援があったということだ。ODAでの活動が善因善果となったのだ。このことを知ったとき、私は改めて世界は助け合っているのだと感じた。この助け合いがあったのはODAのおかげであり、さらに元をたどると、税金のおかげでもある。私はこの事実にとっても感動した。

以前の私は正直、税に対してあまりいいイメージを持っていなかった。しかし、税金が世界規模で役に立っていることを知って、プラスのイメージに変わった。社会に出るようになったら、社会・国・世界の在り方を主体的に考えて納税していきたい。

そして、いつか税の力で世界共通の「あたりまえ」ができればいいと心から思う。